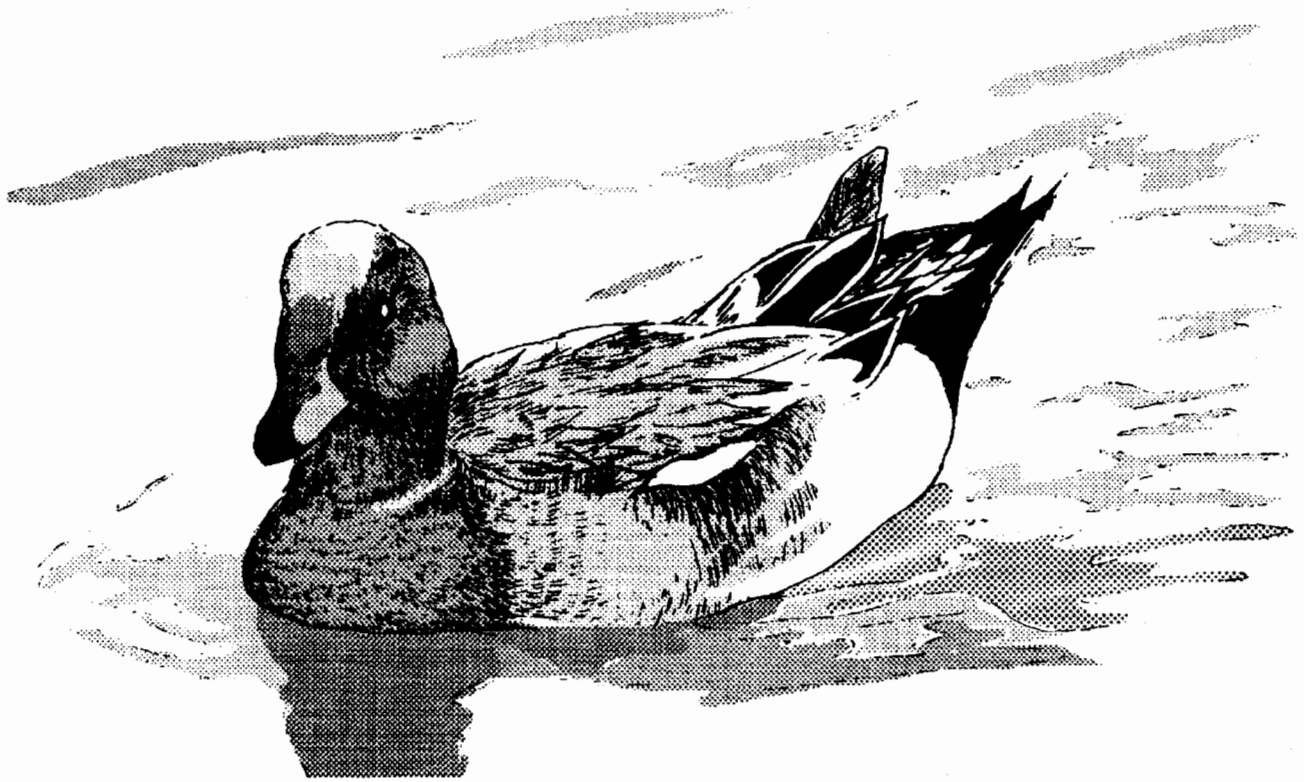


川と鳥

第29号



2000年 11月
(財)日本野鳥の会 三重県支部

● 感 動 ●

平井 正志 (安濃町)

この頃テレビの自然番組を見なくなった。けっこう自然番組が多く、一通りのものは見てしまったというのものもあるかもしれないが、もう一つ理由がある。昔の自然番組は解説者が静かに説明するスタイルのものが多かった。しかし、最近は若い女性が画面にまで登場して、「すごい」という言葉をやたら連発し、感動するものや、自然の現象をネタにしたクイズで、出演者が何のかんのとしゃべりまくるものが多い。自然そのものを楽しみに見ようとしているのにじゃまなものを見せて、時間の水増しである。またそれ以上に自然に対する感動を横取り、あるいは押しつけているのが許せない。

テレビでは元来無理なのであるが、それでも鳥や花を見た時の感動は、見ている人の心に任せるべきであろう。見ている人、ひとりひとりが感動する場面は異なるはずである。その感動をじっくりかみしめることが次の自然観察への意欲を生み出す糧となるのではなかろうか。特に子供にとってはとりわけそれが大切である。自分で見つけた鳥、昆虫、花への興味は自然科学への扉となる。私自身も、小学校のころ見た、用水路の上を飛ぶカワセミの青い背は、現在の私の自然に対する興味の基礎のひとつとなっている。

日本の子供の自然科学ばなれが問題になっている。むろん入試制度や学校教育そのものの問題も大きいですが、テレビの自然番組も自然への興味をはぐくむよい機会になる可能性を持っている。しかし、番組の制作者はおそらく視聴率ばかり考えて、その事を念頭に置いていないようだ。いやそれ以上に彼自身感動の体験を経していないのではなかろうか。



カット：平井 正志

今月の表紙 絵：嶋田 春幸

今月の表紙 ☆☆☆☆

ヒドリガモ

ヒドリガモは、南島町神前浦にも毎年百羽ほど来ます。観察するときは、アメリカカヒドリが混じっていないか探します。去年は一羽見られましたが、今シーズンはどうでしょうか。交雑個体も見られ、稀にヨシガモにも逢えたりします。

嶋田 春幸 (南島町)

目	次
●巻頭エッセイ・表紙の言葉	2
●特集:カモ達に会いたい!	
三重のおすすめカモ・ポイント	3
カモカモこぼれ話1~海ガモと淡水ガモ	4
カモカモこぼれ話2~カモは夜行性?	5
カモカモこぼれ話3~エクリプス!	6
カモカモこぼれ話4~カモ達を脅かすもの	7
県内珍客ガンカモ記録	8
●報告とお知らせのページ	
事務局日誌	9
お知らせ	10
●会員のページ	12
●探鳥会報告	17
●探鳥会報告・奥付	18

特集：カモ達に会いたい！

水ガモが多い西池と住みわけているようです。最近カワウの増加が著しく、ふんによる水の汚れのせいか（植物プランクトンが好きな）ハシビロガモが多少増えてきているようです。また、東池は水が抜かれていることもあり、鳥影が殆ど見えないことも・・・。

玉城町の**勝田大池**も、種類がそろっています。マガモ、コガモが多いのですが、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、オカヨシガモ、ヨシガモと、ひととおりに見られます。また、カモではありませんが、毎年オオバンが入るのもこの魅力。

バードウォッチング初心者におすすめ…

石垣池はもちろん初心者には最適。付近には、他にもカモが羽を休める池が点在。北勢ではミルクロード沿いの**両ヶ池**（大安町）もおすすめ。駐車スペースが十分あり、付近の湿地には観察路もあってカモ以外でも楽しめるとのこと。2月頃ならミコアイサが常連とか。そのほか、種類は少ないけど近くで見られる、というなら、伊勢神宮外宮の**勾玉池**もいいですね。カモはマガモ、コガモが中心ですが、池の周囲を歩くと、カラ類やセキレイ類、バン、カワセミなどにも会えます。最近、コガモの数が減っているよう。池の改修工事と関係があるのでしょうか？

そのほか、香良洲町の**高砂養魚池**も、すぐ近くでマガモやホシハジロ、キンクロハジロなどがゆっくり観察できます。駐車場などはないので、車を池の横に止めて車内から観察するといいいでしょう。近くの松の木にオオタカが飛来するというラッキーもありそう。松阪地区では、「ちとせの森」の中にある**山室八条池**。「ちとせの森」の駐車場に車を止め2～30分歩きますが、その間に山の小鳥も楽しめます。マガモやオナガガモなどが中心。オシドリが入ることもあります。

東紀州では**片上池**（紀伊長島町）が観察に適しているとのこと。ヒドリガモが中心です。

カモカモこぼれ話・その1

●海ガモと淡水ガモ●

探鳥会などで、リーダーから「海ガモ」とか「淡水（陸）ガモ」とか説明されて混乱したことはありませんか？「海にいるのになんで淡水ガモ？池にいるのに海ガモなの？なんでー？」

カモの仲間は大きく2つに分けられます。ひとつは、淡水ガモ。本当は、水面採餌ガモと呼んだほうがわかりやすいのです。ほとんどは小型であしが短く、住んでいるところが主に池や沼などの淡水で、水の中に潜らず、水面で採食したり、逆立ちをして水面下の水草などの植物を食べます。でも、観察してわかるとおり、海にもたくさんいるんですねー。マガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモといったところが代表選手で、陸に上がって歩くのは比較的得意です。

もうひとつの海ガモですが、こちらは潜水採餌ガモと呼んだほうがピンときます。これは内湾などの海水の所で潜水し、小魚やカニなどの動物質の食物をたべます。そうしやすいように、一般に丸っこい体の後方に短いあしがついており、あえて陸を歩くということはありません。キンクロハジロ、ホシハジロなどが代表的ですが、これらは海よりも大きめの池で休んでいることが多いようです。

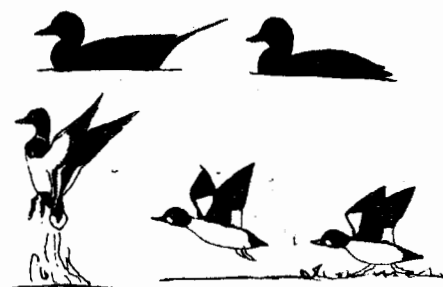
水面採餌ガモは、水面に浮かんでいるとき、尾が水面より上がっているのが普通です。潜水採餌ガモのほうは、尾が水面についているか、つきそうなくらい低いところにあります。また飛び立つとき、水面採餌ガモのほうは垂直にまっすぐ飛び上がりますが、潜水採餌ガモのほうは水面を走って滑走してから舞い上がります。これは、潜水するために比較的体が重いからです。これらの特徴は、距離が離れていても、また逆光の中のシルエットでもわかる特徴です。

さて、問題。今号の表紙、ヒドリガモはどっちでしょう？観察して考えてネ。

山田 昭子（編集部）

参考文献：「今日からはじめるバードウォッチング」

（日本野鳥の会編）



淡水ガモ

海ガモ

特集：カモ達に会いたい！

◇ウミアイサ～田中川、鈴鹿川、櫛田川、宮川などの沖合。波が穏やかな日に探そう。運が良ければ河口の中まで入ってきてディスプレイを見せてくれるかも。

◇スズガモ～五主池（狩猟期が終わってから）。石垣池、岩田池でも。キンクロハジロとの見分けのポイントは、冠羽の有無と背中の色。コスズガモが混じってないかな？

◇カンムリカイツブリ～カモではありませんが、参考までに。鈴鹿川や、安濃川など、県北部の大きな川の河口（沖合）に目を凝らしてみましよう。

◇◇なお、これらはあくまで「出会える可能性が高い」ポイント。必ずという訳ではありません。念のため。あとはカモさんの気分とあなたの運次第で一す。◇◇◇

その他のカモ・ポイント

伊賀地方では、名張川や東・西徳明池（名張市）など。南勢では、伊勢路川河口の内瀬（南勢町）で、ヒドリガモがたくさん羽を休めています。アメリカヒドリを探して見ましよう。伊勢市のサンアリーナ調整池は、ホシハジロ、キンクロハジロなど。昨年はトモエガモの姿も……。中勢では、大淀海岸（明和町）から村松（伊勢市）の海岸線も穴場です。クロガモ、ビロードキンクロの記録があります。ただし、カモの数は多くは見られません。松阪地区では八重田池。探鳥会を行ったこともあります。東紀州では船津川、鏡子川河口、白石湖一帯。紀伊長島町の赤羽川河口でも意外な出会いがあるかも。県南部では熊野（新宮）川の河口が個体数で突出しています。申し訳ないことに、この地方の情報はあまりありません。

◇◇◇ 以上、駆け足でポイントを列挙するだけで終わってしまいました。地図を載せるスペースもなくなり、わかりにくくてごめんなさい。各地区の情報をご提供くださったみなさん、ご協力ありがとうございました。なお、鈴鹿川河口、石垣池、安濃ダム、真泥池、鈴鹿川河口、石垣池、二つ池等については、支部で過去に作成した「探鳥地マップ」があります。ご希望の方は編集部または事務局までお問い合わせください。◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

まとめ：小坂里香（編集部）

カモカモこぼれ話・その3

●エクリプス！！●

皆さんはエクリプスという言葉をご存じでしょうか？

北の繁殖地から秋になると越冬のため日本へやってくるカモの雄は雌によく似た地味な羽根をしています。その状態はエクリプスと呼ばれています。

鳥類の多くは、夏羽を生殖羽、冬羽を非生殖羽としますが、カモの場合は冬羽が生殖羽、夏羽が非生殖羽となるそうです。理由は、カモは越冬中に早くもディスプレイや繁殖に伴う行動を始め、カップルとなって繁殖地へ帰るため冬に生殖羽となると考えられています。

雄ガモ特有の換羽の方法ですね。

換羽の時期はカモの種類によって差があり、11月下旬から12月初旬には美しい生殖羽になると言われています。

カモウォッチングの時、池とか海岸でカモの羽をよくみかけますが、渡来してから換羽するからだったんですね。

私の友人のYさんは、カモの季節、さっそくカモウォッチングに出かけ「ウァ今年のコガモはメスばかり」とおどろいたことがあったそうです。また、Hさんは「あの汚いカモはハシビロガモみただけど、もしかして新種？」と言う具合にエクリプスの雄ガモには楽しい話題がついてまわります。

皆さんもこれからカモウォッチングの際にはエクリプスの雄には惑わされないよう気をつけて見てくださいね。見つけたときには又一味違った楽しみ方が出来るカモかもしれませんよ。

中村みつ子（編集部）

カモカモこぼれ話・その4

●カモ達を脅かすもの●

シベリアなどから、はるばる日本めざしてやってきたカモたち。残念ながら、苦勞の末たどり着いた日本は、決して安心して翼を休めることのできる土地ではありません。さまざまな困難がカモたちを待ち受けています。ここでは、その中のほんの一部ですが、みていきたいと思います。

銃弾に脅かされるカモたち・・・人間による狩猟。古来、カモはタンパク源として人間に恵みをもたらしてきました。現在では職業猟師こそ少なくなりましたが、スポーツとしてカモ猟を楽しむハンターの存在は法的にも認められています。狩猟については、場所や時間、捕獲できる数、などがきちんと定められていますが、世の常として、規則やマナーを守らないハンターが多いのも実態のようです。ここではカモについて、狩猟が許可されている種類を確認しておきましょう。

- 狩猟の対象となるカモ・・・マガモ・カルガモ・コガモ・ヨシガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・ハシビロガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・スズガモ・クロガモの計11種。
 なお、ハシビロガモ、ヨシガモについては、生息数減少により捕獲自粛の指導がなされています。クロガモだって、三重県では稀少ですよー。
- 一日に狩猟可能な数・・・合計5羽以内。 ●狩猟可能な時間・・・日の出から日の入りまで。

また、狩猟については、カモが鉛散弾を石（砂嚢にためて餌をすりつぶす）と間違えて摂取し、鉛中毒で死亡するという問題があります。このため、平成12年度から各都道府県に、1カ所以上の鉛散弾使用禁止区域が設けられることになりました。これはモデル地区として試みに設定されるものですが、最終的には全国すべての地域での鉛散弾禁止に結びつけばいいですね。ちなみに三重県では、磯部町伊雑ノ浦周辺、尾鷲市須賀利付近、御浜町上市木の一部、阿山町滝谷池の4カ所で、合計しても553ヘクタールという、ごくごく限られた地域にすぎません。

魚に脅かされるカモたち・・・もう一つの脅威は、外来魚による圧迫です。といっても、魚が悪いわけではありません。これも人間による脅威です。「三重のカモ・ポイント」の中でも触れましたが、ブラックバス、ブルーギルといったゲームフィッシュが池や川に移入されることにより、釣り人が水面に入り込んでカモを追い出してしまうという事態があちこちで起こっています。バスフィッシングは、ボートや浮き輪を用いて水面の隅々まで移動して行く人が多いため、オシドリなどの警戒心の強い種はそこに寄りつかなくなってしまいます。大山田村の真泥池などはその顕著な例ですが、他にも多くの池で影響が出ています。在来魚に対する食害はもちろん、外来魚の移入は、カモなどの野鳥にも大きな悪影響を及ぼしているわけです。また、放置された釣り糸やルアー（針付きの疑似餌）によるからまり被害、マナーの悪い釣り人が残していくゴミなど、関連する問題も見逃せません。

先日、富山県でバスを放流した会社員が書類送検されたニュースが報道されましたが、県の自然環境課に聞いたところでは、三重県でも、「三重県漁業調整規則」の「外来魚移殖制限」によって対応は可能とのことです。この規則は殆どの公共水面に適用され、違反者には6ヶ月以下の懲役もしくは10万円以下の罰金が科せられるというものですが、放流の現場をおさえることが難しいこと、生物多様性の保全ではなく漁業資源の保護を目的としている規則であるため、現実には適用は難しいようです。

自然環境課では、バス類の生息状況や野鳥に対する被害など、詳しい情報を提供してもらえれば今後の対策の資料にするとのことです。みなさんも、身近にそういう問題があれば、是非下記窓口まで、ブラックバス等が放流されている具体的な場所（池の名前など）や状況を（文書で）ご連絡ください。

〒514-8570 三重県庁内 環境部自然環境課 自然・野生生物グループ
 電話～059-224-2578

小坂里香（編集部）

県内珍客：ガン・カモ記録

この10年間ほどの比較的珍しい記録を種別に集めてみました。わかる範囲でまとめましたので、この他にもありましたら編集部までご一報ください。

なお、ガン・カモ類のほか、アビ類についても記載しています。

種名	数	確認年月	確認場所
オオハム	1	1996. 1	紀伊長島町赤羽川河口
オオハクチョウ	1	1992. 11	海山町船津川
コハクチョウ	2	1994. 1	磯部町穴川養魚池
コクガン	4	1990. 1	津市安濃川河口
〃	1	1990. 12	〃
〃	2	1991. 12	〃
〃	2	1992. 1	〃
〃	2	1992. 1	伊勢市宮川河口
〃	1	1996. 1	三雲町雲出川河口
〃	2	1996. 1	紀伊長島町赤羽川河口
〃	7	1997. 12	三雲町雲出川河口
〃	2	1997. 12	伊勢市宮川河口
〃	1	1999. 12	鈴鹿市鈴鹿川河口
〃	1	2000. 11	三雲町雲出川河口
マガン	8	1992. 11	三雲町五主たんぼ
ヒシクイ	1	2000. 10	三雲町五主
アカツクシガモ	1	1993. 10	三雲町曾原新田
ツクシガモ	4	1996. 1	三雲町曾原新田
〃	1	1996. 1	御浜町志原川
〃	1	2000. 1	三雲町
アメリカコガモ	1	1990. 1	津市殿村池
〃	1	1994. 12	玉城町勝田大池
オオホシハジロ	♂1	1995. 2	津市岩田池
〃	♀1	1995. 2	香良洲町
アカハジロ	1	1995. 11	海山町船津川河口
コスズガモ	1	1996. 3	河芸町田中川養魚池
〃	1	1999. 12	香良洲町
コオリガモ	1	1999. 12	鈴鹿市鈴鹿川河口
クロガモ	2	1991. 4	伊勢市宮川河口
〃	2	1991. 5	〃
〃	2	1991. 8	〃
〃	1	2000. 3	伊勢市有滝漁港
ビロードキンクロ	1	1992. 7	三雲町三渡川河口
〃	1	1997. 4	明和町大淀海岸
カワアイサ	1	1996. 1	四日市市伊阪ダム

備考：津市の安濃川河口には、ほぼ毎年コクガンが飛来しており、11羽の観察記録もある1989年1月に1羽が撃たれるという、銃過があった。

また、1996年1月には三雲町で、ツクシガモ1羽が銃過に遭っている。

1991年、宮川河口のクロガモは、1羽が翼を痛めていた。

1992年、三渡川河口のビロードキンクロも左翼を痛めていた。 まとめ：林 淳子（編集部）

事務局日誌

- 8月7日(月) 御浜町山地銃猟禁止区域(廃止)、七里御浜銃猟禁止区域(廃止)、紀南銃猟禁止区域(新規設定)に対する意見書を提出(紀南県民局生活環境部長宛)
- 10日(木) 松阪市、三雲町三渡川銃猟禁止区域設定に対する意見書を提出(松阪県民局生活環境部長宛)
- 19日(土) 磯辺町伊雑ノ浦鉛散弾規制地域の設定、阿山町滝谷鉛散弾規制地域の設定、尾鷲市元須賀利鉛散弾規制地域の設定、御浜町上市木鉛散弾規制地域の設定に対する意見書を提出(三重県知事宛)
- 29日(火) 磯辺町伊雑ノ浦鉛散弾規制地域の設定に関する公聴会に、公述人として支部長出席
- 30日(水) 尾鷲市元須賀利鉛散弾規制地域の設定に関する公聴会に、公述人として支部長の代理が出席
- 31日(木) 阿山町滝谷池鉛散弾規制地域の設定に関する公聴会に、公述人として支部長の代理が出席
- 9月4日(月) 四日市市八郷銃猟禁止区域(新規設定)、四日市市桜・坊主尾銃猟禁止区域(期間更新)、四日市市高花平銃猟禁止区域(期間更新)、亀山市能褒野・鈴鹿市広瀬銃猟禁止区域(期間更新)、鈴鹿市石薬師・自由ヶ丘銃猟禁止区域(期間更新)に対する意見書を提出(北勢県民局生活環境部宛)
- 8日(金) 名張市滝之原の保安林とその付近に生息するオオタカについて、伊賀県民局生活環境部へ説明に行く。《保護部》
- 11日(月) 白山町二本木鳥獣保護区(期間更新)、芸濃町北部休猟区(新規設定)、久居市榑原西部休猟区(新規設定)に対する意見書を提出(津地方県民局生活環境部長宛)
- 20日(水) ◇名張市滝之原の保安林とその付近に生息するオオタカについて、県森林保全課と自然環境課へ説明に行く。《保護部》
◇会員から送られてきた「地域で守りたい自然・野生動植物について」を県自然環境課に提出
- 28日(火) 後日会員から届いた「地域で守りたい自然・野生動植物について」を県自然環境課に送付
- 10月5日(木) ◇2000年11月～2001年3月の探鳥会案内、その他を三重県支部会員に送付
◇「みえ・スカイフェスタ2000」の会場での、写真の展示等の準備(写真展示等10月22日まで)《企画部》
- 8日(日) 名張川探鳥会の後で「バードウォッチング案内人・ミニ研修会」を開催《企画部》
- 9日(月) 2000年秋期シギ・チドリ類調査結果を、とりまとめを行っている世界自然保護基金日本委員会へ送付《研究部》
- 12日(木) 津市中央公民館主催の短期講座「バードウォッチング」にリーダー2名を派遣
《企画部》
- 11月9日(木) 津市中央公民館主催の短期講座「バードウォッチング」にリーダー1名を派遣。
《企画部》
- 12日(日) 局ヶ岳探鳥会の後で「バードウォッチング案内人・ミニ研修会」を開催《企画部》

編集部より：11月23日開催分の「理事会通信」は印刷日程の関係で、次号掲載とさせていただきます。

企画部より

●写真展示へのご協力ありがとうございました。

前号の「しろちどり」誌上で、「みえスカイフェスタ2000」で展示する野鳥写真の募集を掲載したところ、数名の方のご協力をいただきました。ご提供いただいた写真を含め、19点の野鳥写真を期間中県営サンアリーナに展示させていただきました。ご協力、どうもありがとうございました。

●企画部へのご意見・ご協力をお願いします。

企画部では、来年(2001年)度の探鳥会についてのご意見、ご希望を募っています。探鳥会をしてほしい場所、リーダー志願(大歓迎)、その他探鳥会についてのご意見がありましたらご連絡ください。

また、引き続き里山についての展示物づくりへの協力者も募集中です。展示のアイデア、里山の写真をお持ちの方、展示物作りにご協力いただける方、ご連絡をお待ちします。

いずれも連絡先は
企画部・橋本 祐子 () までお願いします。

本部より

●本部・自然保護センターより、お詫びと訂正

「野鳥」誌9・10月号に折り込まれていた「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2000」結果報告パンフレットのグラフに、一部誤りがありました。

グラフ「こんな店を調査しました」の、「日本産鳥類と同種の鳥を売っていた店」の店数の数字(折れ線グラフ)が左より「90・63・32・13・20」となっているのはそれぞれ「74・57・26・8・14」の誤りです。お詫びして訂正させていただきます。

その他のお知らせ

●ご存知ですか?野鳥の会のフィールドマナー「やさしいきもち」が少し変わりました。

- や 野外活動、無理なく楽しく
- さ 採集は控えて、自然はそのままに
- し 静かに、そーっと
- い 一本道、道からはずれないで
- き 気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑
(これまでは「着るものにも一工夫」)
- も 持って帰ろう、思い出とゴミ
- ち 近づかないで、野鳥の巣



しろちどり誌上へのご投稿はこちら…

〒
TEL・Fax

E-mail

小坂里香

テーマ投稿、自然や野鳥に

ついでのエッセイ、観察記録、探鳥会の感想、そのほかどうしても言いたい一言、短歌・俳句・詩、など…。野鳥や季節の植物などのイラスト(薄墨不可。白黒2色、コピーをお願いします。)も大歓迎。なお、原稿に手を入れたり、削ったりすることもありますのでご了承ください。

次号テーマは、「探鳥会を考える」です。お気に入りの、また思い出の探鳥会についてや、探鳥会に対する要望やご意見などをお寄せ下さい。

講演会報告

保護部では9月10日(日)、三雲町「ハートフル三雲」において、「渥美の自然とその保護活動—ゴルフ場、農免農道、空港土砂取り問題などから—」と題し、愛知県で「渥美自然の会」を主宰されている大羽 康利氏の講演会を開催しました。当日の参加者は30名を超え、スライドや資料を交えた渥美半島の自然や、「自然の会」の保護活動の詳しい内容の説明に耳を傾けていました。

参加された近藤さんに感想文をお寄せいただきましたので、以下掲載させていただきます。

なお、講演会の会場設定につきましては、三雲町在住の会員、田中ハネ郎様にご協力ならびにカンパをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

講演会「渥美の自然とその保護活動」に参加して

7月頃、自宅近くで交通事故にあい瀕死状態のイシガメを保護しました。残念ながら、そのカメはすぐに死んでしまいました。

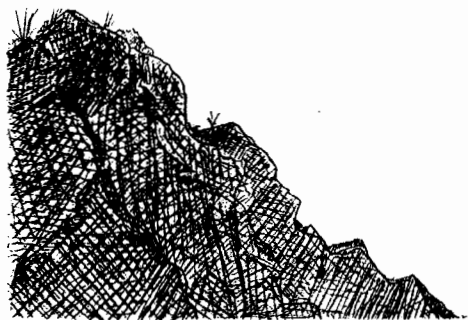
カメには、甲羅に個体識別のための穴が開けられていました。以前から、この地域でカメの研究をされている愛知学泉大の矢部隆助教授に電話をしたら、土に埋めてしまった死骸を、わざわざ遠く豊田市から取りにこられました。久しぶりにお会いして、いろいろな話をしていたとき、渥美半島で熱心な活動をされている大羽康利氏のことが話に出てきました。そのときから、今日の講演を楽しみにしていました。

講演会は椅子が足りなくなるほどたくさんの参加者があり、大盛況でした。渥美半島は国立公園や県立自然公園などに指定され、多くの自然が残されています。そこで、次々に起こる開発の問題に大羽さんは仲間を組織し、自然を守るための活動を熱心に取り組まれています。春のシデコブシの花、秋のタカの渡り、このことをテーマに多くの人を集める講演会を開いてみえます。問題になった開発はと、ゴルフ場・林道と・中部国際空港埋め立て用土砂採取・伊勢湾岸道路などでした。

同じような問題が、私たちの地域にもたくさんあります。そのためにどのように活動したらよいのかと、大羽さんの話はとてもよくわかりました。いつもうまくいくわけではないので、「だめでも仕方ない」と自分に言い聞かせるといわれています。私たちは何か取り組むとなると、絶対に自然を守りたい……となります。できなかつた時の敗北感、挫折感を恐れてしまいます。でも、大羽さんがいわれるように「保護活動をしようとしたことが記録に残るだけでもいい。」ということは、何か肩の荷が軽くなって、元気の出る言葉でした。

まずは、車にひかれられないように気をつけて、カメの一步でも歩み始めようと思います。

近藤義孝(多度町)



●南勢地区だより●

「ちょっとがっかり、今秋のタカ渡り」

2000年秋、伊勢市での
タカ渡り調査結果の概要

南勢地区有志で調査した今秋のタカ渡り調査結果を、下記の通りまとめました。

- 【場 所】 (1)6:00～8:00 伊勢市藤里町の吉居宅 (標高10m)
(北緯34° 28' 12"、東経 136° 42' 10"、伊良湖岬の西南西 31.2Km)
(2)8:00～12:00 伊勢市旭町、やすらぎ公園 (墓地公園・標高70m)
(北緯34° 28' 24"、東経 136° 41' 22"、伊良湖岬の西南西 31.7Km)
- 【年月日】 2000年 9月22日 (金)～10月12日 (木)
- 【調査者】 伊藤雅人、川北俊夫、高木和夫、中村洋子、中村みつ子、林 淳子、西村 泉、
山川尚子、山田昭子、吉居 清、吉居瑞穂 (敬称略)
- 【観察種】

月 日	調査時間帯	サンバ	ハチクマ	ミサコ	タカsp	その他	合計	累計	
9月22日	9:40	1					1	1	
9月23日	7:40	(1)					0	1	
9月24日	6:45	(3)					0	1	
9月25日	6:10-12:00	0					0	1	
9月26日	5:55-12:00	9	1				10	11	
9月27日	6:45-12:00	5					5	16	
9月28日	6:00-13:20	289	3	1		1(チヨ)	294	310	
9月29日	7:00-11:15	189	3				192	502	
9月30日	6:00-10:35	0					0	502	
10月1日	6:00-12:30	108	3			1(チゴ)	112	614	
10月2日	7:55-11:20	38	7	1		2(注3)	48	662	
10月3日	7:40-11:20	84					84	746	
10月4日	5:55-11:20	72					72	818	
10月5日	6:00-11:30	78			2(小型)		80	898	
10月6日	6:00-12:00	132	1	4		1(ハヤ)	138	1036	
10月7日	5:55-12:20	384		1	1(小型)		386	1422	
10月8日	5:40-12:00	484	4	2		5(注4)	495	1917	
10月9日	— 雨のため調査中止							0	1917
10月10日	6:00-10:00	10		1	1		12	1929	
10月11日	6:00-10:00	0					0	1929	
10月12日	7:50-10:05	8		1	1		10	1939	
合 計		1891	22	11	5	10	1939		

(注1) 9月23・24日は、姿を見たが渡って行かなかったのので、参考までに示した。

(注2) その他のタカの略称 ○チゴ: チゴハヤブサ、○チヨ: チョウゲンボウ、
○ハヤ: ハヤブサ

(注3) 10月2日のその他のタカは、ハヤブサ 1とオオタカ 1。

(注4) 10月8日のその他のタカは、ノスリ 3、オオタカ 1、チゴハヤブサ 1

【備 考】

(1)今シーズンは、1987年の本格的な調査を始めて以来、最低の数になった。これまでの最低が1998年の2,590羽であるから、今年はこれを大幅に下回った。

(2)このように少なかった理由の一つは、今シーズンの最高を記録した10月7日の伊良湖岬で、大半のタカが太平洋寄りのコースを通ったことである。

(3)丁度、10月1～22日の間、伊良湖岬から西に向かう渡りのルート上に当る鳥羽市安楽島町と伊勢市朝熊町でパラシュート降下の世界選手権を中心として「みえスカイフェスタ」が行われ、日によっては8時前からヘリコプターが飛び交っていたことが、影響したのではないかととの声もあるが、確証は無い。
(報告: 吉居 清)

ピラカンサとジョウビタキ

濱中 勝彦 (四日市市)

軽い気持ちで庭に植えたピラカンサが、色々な小鳥達との出会いをプレゼントしてくれました。

1. 1997年秋～1998年春

8年程前に、今は北海道へ引っ越された加藤さんから頂いたピラカンサを2本、庭に植えました。3年程して根が十分張ってきたのか、枝がよく伸び、そしてこの年、初めて枝一杯に実をつけました。しかし、初めての実の為か、ヒヨドリやツグミなどの鳥達は年内中は無視していましたが、1月下旬になって、ようやく食べ始めました。よく見ると、どうもジョウビタキ♀も南の木の影に来ているようです。丁度良い具合に1月第4日曜日、20cmを越す積雪が有り、(赤い実・白い雪・小鳥たち)と、これは願ってもないシャッターチャンスと、鍋田の探鳥会の日でしたが、1日中写真撮影をする事にしました。ジョウビタキは、1, 2粒赤い実を飲み込むと、さらに1粒を口にくわえて飛んでいきますが、この時の写真を見ると、本当に幸せそうな顔をしています。

そして春、冬鳥の季節が終わってから、来

シーズンに備え、このジョウビタキに食べさせたく、Kさんからミルワームを少し分けてもらい飼育を始めました。

2. 1998年秋～1999年春

この年は、11月下旬に鳥達がピラカンサの実を食べ始めました。早速、ミルワームを置きましたが、なかなかジョウビタキに見つけてもらえません。いつも止まる枝の下に置いたところ、数日して発見してもらえました。現金なもので、ジョウビタキはこれ以後、虫餌が有るとそればかり。不思議なことに、ツグミは同じの枝の上に来ていますが知らん顔。でも、ピラカンサの実がなくなると食べることを食べる。いくら虫が有っても足りませんので、ツグミ用には早々にギブアップ。金属製の格子状の鉢をかぶせ、ツグミやムクドリが食べられないようにしました。

このメスのジョウビタキは、家の周りを縄張りにしており、周囲のTVアンテナを見張り所に見張り所で見つけた時は、すぐに飛び降りてきて近くの木の枝に止まって、尾をカタカタ振って待っています。姿が見えない時は口笛を吹くことにしたところ、それが聞こえると飛んで来て、塀の上や1m程離れた枝に止まって待つようになりました。背中全体を耳にして、5匹、1

鳥信・短信・ぴーちくばーちく

●E メールアドレス公開/お便りお待ちします (´o`) *マナーを守って楽しくメールのやり取りをしましょうネ。

◎四日市の岡崎です。探鳥歴3年ほど。今秋、ツツドリとジュウイチを見て悦に入っています。

岡崎 幸三

◎初めまして、川村 勇ともうします。最近まで雑貨の店をしていました。今後も宜しく御願います。

川村 勇

◎上野市に住んでいます。平日には野鳥観察が最高と思ってるのですが、あいにく土日しか休めません。たいがい珍しいのが出たと言われて出かけてみたら肩透かしが多いもの。でも、野鳥情報を分けて下さる方のメールをお待ちしております。

山中 久次

●野鳥情報

中村川におけるオジロトウネンの越冬 久住 勝司 (嬉野町)

今年も10/12に、7羽が元気な姿を見せました。ちなみに昨年は10羽、所認11/10、終認3/23と、今年は約1ヶ月早い渡来です。(場所は「しろちどり」26号6ページを参照してください。) 静かに見守ってあげてください。

勢和村でオナガを観察しました 北川 和則 (勢和村)

11月6日午前11時ごろ、勢和村丹生で電線にとまるオナガ1羽を観察。黒い頭、長い尾、水色の翼で間違いありません。珍しいので報告します



0匹、20匹と数えながら虫を餌台に入れている時に、このカタカタが後ろから聞こえてくるととても嬉しいものです。

この餌台には、その他、♂、♀のジョウビタキと2、3羽のウグイスが来ました。縄張り♀が他のジョウビタキを見つけた時は、血相を変えて10cm足らずの間隔で追いまわし、縄張りの外まで追い出すようです。この時の曲芸飛行は本当に素晴らしいです。ウグイスの場合は、それ程でもなく、隣家の庭まで出て行けばそれで良しとするようです。3月20日すぎに旅立ったようで、♂はもう少し早かったようです。

3. 1999年秋～2000年春

この年、11月1日、初認。ジョウビタキ♀が昨シーズンよく止まっていた庭の木の枝や餌台の枝に止まり、そしてピラカンサの実を1つ、2つ、つまみまわす。おお、よしよし、と早速虫餌をセットすると、直ぐに食べ始めました。これは去年の娘に違いない。虫餌を出すと、やはりピラカンサの実を食べません。

11月10日、虫を餌台に入れていると、頭上1m程の枝の上に止まって尾をカタカタ。

11月11日、隣家の庭で羽音がするので、口笛を吹くとピュッと飛んできて、目の前1m程の枝に止まる。

口笛への反応から、やはり去年の娘だと確信しましたが、その後反応がイマイチ。他のジョウビタキに縄張りを盗られたのか、とか、鷹や猫に捕られたとか、心配しました。その後、団地の中や南部丘陵公園など散歩してみました。まだ、他のジョウビタキはあまり来ていないようで、どうも、この時期は、縄張りが広く、また、餌も各種豊富で、餌台への依存度が低かったからなのでしょう。

11月25日ごろ、ようやく、ヒヨドリ、ツグミ、メジロそしてスズメが、ピラカンサの実を食べだしました。去年のメジロは、実を齧っていましたが、今年は丸呑み。実が小さいからか？スズメは、メジロより大きいのに、丸呑みできず齧っていました。

1月末、ピラカンサの実も無くなり、餌台への訪問頻度が上がりました。この時期になりますと、口笛を吹くとほぼ毎回来るようになります。

3月中旬ごろから、一層虫餌を欲しがるようになり、虫餌がある間は近くにいて、腹が空くと食べます。渡りの為の脂肪を急速に貯めたいので

しょう。この為、2羽のジョウビタキが庭で出くわし、見合うことがよく観察され、その結果

1. 縄張りメス（成鳥の羽毛）→主♀、と略記
2. 侵入メス若のち縄張り2代目（腹部の色がくすんで、上尾筒の色が薄い）→侵入若のち主若、と略記
3. 侵入メス成鳥→侵入♀、と略記

の3羽のジョウビタキが来ていることがはっきりしました。

主♀と侵入若が見合うことが多く、この時期になると、餌台を見張るだけであまり遠くまでは追いかけません。多分、せっかく体内に貯めた脂肪の燃料を減らしたくないのでしょう。侵入者が餌台に乗ったときだけ追い出します。この様な状況のため、主♀は十分に虫餌を食べられますが、侵入若は殆ど食べられません。そこで、この2羽の間に入り、体で主♀から見えないように地面に虫を置き、1m程離れ待っていると、始めはこわごわでしたが2回目からは慣れてよく食べるようになりました。ある日、手持ちの虫が無くなったので、うっかり虫餌台から取り出して侵入若に与えたところ、主♀が血相を変えて頭上に飛んできて怒っていました。多分自分の領分の餌を侵入者に勝手に与えるのは駄目だ、と主張しているのでしょう。この侵入若は、何とも頼りなく、とうとう私の部屋のガラス戸の外で待っていて、時々中を覗いて餌を催促するようになりました。また、ある日は、物置の飼育箱から虫餌を数えながら取り出しているのを見つけ、塀の上を数m程、トコトコと走ってきて1m程離れた自転車の上に止まって餌を催促したりしました。何とも可愛く、おお、よく来た、と虫を与えました。

3月28日、主♀が旅立った模様。侵入若が、午前中独り占め。以下、侵入若→主若と略記。

午後、侵入♀が来ると、この主若が、前の主♀と同じように、餌台から追い払っていました。昨日までの頼り無さとの較差に驚き、また、感動致しました。

この主若も、4月3日旅立ったようです。しっかり子育てを終えて、また我が家に帰ってきてくれるのを願っています。

大変貴重な経験を与えてくれた、ピラカンサとジョウビタキ達、そしてミルワームを援助して下さったKさんに感謝します。

秋は渡り鳥とともに…
岡崎 幸三 (四日市市)

9月18日、渡りがないかと思って県民の森へ行ったら、いました、ジュウイチの幼鳥。センターのすぐ横の桜の木にいました。ツツドリは毛虫を食べるといいますから、やは

り毛虫を食べていたんでしょうね。金色のアイリング、ハヤブサを思わせる顔の模様、首の後ろの白斑、ピンズイのような胸の縦斑、なまなましく目に焼き付けてきました。ほかは、オオタカ、カケス、モズと寂しい鳥影。アサギマ

ダラがいたのが救いでした。

後日、伊坂ダムの桜並木にツツドリが3羽～4羽いました。シジュウカラ、エナガ、メジロ、コゲラの混群にウグイス、コサメビタキが混じり、にぎやかでした。いよいよ秋ですね。

連載・ボーボー日記

過去3回の大連載(?)となったボーボー日記ですが、極少数の方々から大変好評につき、是非番外編をというお言葉。真に受けて性懲りも無く、格調高い「しろちどり」の紙面に汚点を残す事になってしまいました。

番外編



【ウサギ帽子を鳥に取られた話】

知り合いの若い娘さんが熊野川のほとりを一人で散歩していた時のことです。お気に入りの毛糸で編んだウサギのような白い耳付帽子をどこからとも無く現れた鳥がヒョイと足でつまんで飛び去って行きました。気丈な彼女は石を投げようとしたのですが場所が熊野川です。神の使いであるヤタガラスかもしれないと思いとどまったそうです。

その鳥は何であったのか彼女には解らなかつたそうですがやはりヤタガラスだったのでしょうか。今ごろフカフカの毛糸帽子の巣で、3本足のヤタガラスの雛が生まれていたりして。

【バンディングにお供した話】

バンディングをご存知でしょうか。鳥の渡りや生態を研究するために野鳥を網で捕え、足にアルミのリングをはめるのです。その野鳥が別の場所で発見されればそのリングの記号から以前捕獲された時と場所が解り野鳥の生態研究に役立つのです。

バンディングをするには資格があるので普通の人(即ち私め)には出来ませんが、鳥にさわりたい下心で無理をお願いし、資格をお持ちの人(即ち偉い人)のお手伝い(本当はおじゃま虫)をしました。

秋の河原で夜明け前に網を張った時のことです。モズ、ホオジロ、カワラヒワ等に混じってノゴマのオスがかかりました。赤いどの色がとても印象的です。夏の北海道でしか見られないと思っていたのでびっくり。秋の渡りの途中に時々かかるそうです。また春の高原ではシジュウカラ、コガラ、エナガなどに混じってオオルリがかかりました。青い背中とつぶらな眼。間近で見るとその美しさには我を忘れて見とれてしまいます。それまで見たこともなかったクロツグミもさわることができました。

カケスがかかったときは不用意に手を出して、くちばしで人差し指をはさまれてしまいました。これが結構痛いので外そうとするのですがカケスも「コノヤローと」言った目つきでこちらをにらみます。無理に引っ張るわけにも行かず、カケスも「咬んじゃったけどさてどうしたものか」と思案をしているようでした。やっと離してもらったら、血が出ている始末で、その後しばらく、会う人ごとにカケスに襲われたと言ってその傷跡を見せ喜んでいました。皆さんも機会があれば経験されるとおもしろいかと思います。

とりとめのない話で恐縮でした。機会が有りましたら又書きたいと思います。どんどはれえ
(岩手県遠野地方の方言で、おしまいの意味) 橋本 富三 (津市)

心やすらぐ三重の里山

山田 陽一郎(松阪市)

東京と横浜で2年ほど暮らしたことがあるが、里山がまわりに少ないと、気がおかしくなりそうだった。

故郷の三重に戻って、(本当は私の故郷は北勢だが、意図的に自然が豊かな南勢を狙って戻ってきたのだが)収入は減ったがほっとしている。

森を歩きたいときすぐ近くにいい森がいくらでもある。東京にも井の頭公園などの緑はあるが、いつも人がいっぱいだし、植樹された木々は私の心を休めるには物足りない。奥多摩や丹沢、伊豆まで行くのは大変であるし、そこも人でいっぱいである。

最近松阪近辺でとくに気に入っているのが鳥岳北麓である。勢和村波多瀬から神社の前に車を止め、歩きだすとイカルの群れやホオジロのさえずりが迎えてくれる。頂上への行程の

半分はスギ・ヒノキの植林なのは残念だが、残り半分は人が入らず放置されたためか、かなり大きくなったアベマキ・コナラ・エゴノキなどの雑木林が続く。アカゲラのドラミングが響き渡る。ホトトギスやツツドリの声も聞こえてくる。サンコウチョウを初めて見たのもここだった。森に深さがないと、こんな生きものたちの気配はしてこない。

この森は江戸幕府の採薬師、野呂元丈が子どものころから親しみ、江戸に出てからも懐かしんだという手紙が残っているそうである。(詳しくは勢和村野呂元丈記念館へ問い合わせを)そんな森が松阪の住宅街から車でわずか20分で行ける。そして誰にも会わずに山歩きができるのである。

心を休めてくれるのは森だけではない。宮川の支流の一之瀬川や、飯南や飯高などの櫛田川で、あるいは熊野まで足を伸ばして海でシュノーケリングをす

るのも心を充たしてくれる。また東京近辺のように自然に飢えた人々が殺到するわけでもなく、地元の人があんまりその良さに気づいていないところがまたいい。

ずっと南勢に住んでいる人は気づかないかもしれないが、こういった森や川、海が無くなったとき、南勢にはほんとうに何も無くなってしまおうと思う。

いつか雑木林に囲まれ、泳ぎたくなるような川が近くにあり、薪ストーブや薪風呂が焚けるような家に住むのが夢である。

(編集注:後日、山田さんから、この鳥岳、標高約300m地点でキバシリを確認したとのメールをいただきました。至近距離から模様や動きなどはっきり見えたとのことで、間違いないそうです。通常キバシリは高山帯の野鳥とされており、三重県でも大台ヶ原などで観察できますが、珍しい記録ですね。)

観察記録
夏から秋へ

- 8/11 伊勢湾にて(鳥羽へ向かうフェリーのデッキから) 舷側わきを泳ぐサメ(sp)1を発見。ハンマーヘッドからシュモクザメと判断する。
- 8/23 鈴鹿御在所岳。アカトンボ(アキアカネ)のマーキングに家族3人で参加、♂11♀7計18頭にマークする。ちなみに今シーズンの合計マーキング数は約15000頭(延べ1400人あまりが参加)で過去28年の最高記録だそうです。もしアカトンボの羽根に赤いGマークを見つけたら教えて下さい。
- 8/31 早朝、桑名市五反田。員弁川とその支流藤川との合流点付近のタケ林。サギの集団ねぐらを発見。ざっと200羽。その後の観察で日の入り前にはここへ向かういくつかの群れを見る(壮観)。
- 9/18 菰野町三重県民の森。ナガサキアゲハ(♀)1、ムクゲの花で吸蜜中を初確認。チョウに詳しい人に聞くと三重県では津市ではサナギ越冬を確認。鈴鹿市でも結構多いが、四日市、菰野地区では珍しいのではないかとのこと。今年の暑い夏との関連があるのかもしれないとのこと。
- 10/6 三重県民の森。イヌワシらしき2羽の飛翔を見る。30倍のスコープで1羽をとらえてずっと追っていると同じ視野にもう1羽入ってくる。かなり上空。1、2分一度もはばたかず。
- 10/13 三重県民の森。キビタキ♀1、のんびり羽つくろい。
- 10/14 同上。キビタキ♀1、オオルリ♀1、さかんにエサとり。

矢田 栄史(菰野町)

探鳥会報告(2000年8~10月分)

●高松海岸観察会(川越町)

日時:8月27日(日)10:00~12:00

担当:市川雄二・高和義

参加者:15名

観察種:18種

カイツブリ・カワウ10・アオサギ1・サコ11・コサギ9・トビ2・イソギ2・シギ spl・ウミネコ53・キジバト2・ツバメ7・ハクセキレイ4・セグロセキレイ2・イトビヨドリ♀2・ムクドリ4・ハシボソガラス8・ハシブトガラス2・セッカ1

*開始前ホウロクシギの鳴き声を聞いたとの報告があり期待していたが視認できず。霞4号線の計画と経過を参加者に説明、理解されたと思う。

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

日時:9月2日(土)9:00~11:00

担当:西村泉・山田昭子

参加者:9名

観察種:11種

メジロ3・キジバト2・ヤマガラス1・カササギ2・カイツブリ成1幼1・ツバメ100・ヒヨドリ3・スズメ3・ダイサギ1・ハシボソガラス2・ハシブトガラス2

*地元の人に初めて探鳥会に来てもらったが、なぜここで探鳥会をやるのか目的を説明したがあまり理解していなかったようだ。力不足だった。

(編集注:この探鳥会については案内に誤記があり、9月3日となっていました。そのため3日にも来られた方があり、参加者5名でミニ探鳥会を行いました。その日はエナガを中心とした混群、ツバメの500羽以上を単位とした渡りの群などが見られたそうです。)

●海蔵川探鳥会(四日市市)

日時:9月6日(水)10:00~12:00

担当:尾畑玲子・木村京子

参加者:11名

観察種:27種

カイツブリ・カルガモ・コサギ・ダイサギ・チュウサギ・アマサギ・ゴイサギ・ハンケリ・ツバメ・コシアカツバメ・カササギ・キジバト・コケラ・セグロセキレイ・ハクセキレイ・ヒヨドリ・モズ・セッカ・オオシキリ・ホシロ・カラヒワ・キセキレイ・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス

*昨年まではこの付近はホタルが乱舞していたのに今年はまったくでなかった。代官橋のすぐ下に可動堰を作った影響ではないか?などの話で盛り上がった。会員外の参加者が3分の1近くを占めた上、地元の事情に詳しい人たちがおられたので、下流の四つ谷橋が老人向きでない構造になっているなど、実情をきくことができた。可動堰の工事は終わり、堰一代官橋間の川幅を広げる工事に入っている。その次は代官橋をつけかえる計画がある。橋のつけかえ工事に伴い橋の上流約50メートルの間を掘り返すため生態系が破壊されるおそれがある。

●雲出川河口探鳥会(三雲町)

日時:9月10日(日)9:30~11:30

担当:久住勝司・西浦克征

参加者:29名

観察種:20種

オソリハシギ・キアシギ・トリネ・ツリハシギ・オハシギ・チュウシャクシギ・シロチドリ・ウミネコ・ユリカモ・セグロカモ・アジサシ・カワウ・コサギ・ダイサギ・アオサギ・ツバメ・スズメ・キジバト・ムクドリ・ハシボソガラス

*シギ・チドリの数が少なく不満足。午後の講演会に出席予定者の参加が多く盛会であったが、今年はどこもシギ・チドリの渡りが遅く今日の探鳥会も30分位時間を切り上げたくらいでした。

●安濃川河口探鳥会(津市)

日時:9月24日(日)9:30~12:00

担当:西浦克征・坂口守

参加者:8名

観察種:26種

キアシギ5・ツリハシギ15・ハマシギ1・キョウソウシギ1・シロチドリ65・ミヤコトリ6・ダイサギ・コサギ・アオサギ・カルガモ・マガモ・キンクロハシロ・オナガガモ・ウミネコ・ユリカモ・カワウ・アオバト2・キジバト・ヒヨドリ・ムクドリ・モズ・ツバメ・ホシロ・ハクセキレイ・スズメ・ハシボソガラス

*江戸橋上流側のヘドロの中での採餌の状況や、先の大雨で海岸に打ち上げられた多数のプラスチック廃棄物等も見えていただき感じていただけるものがあつたと思う。

探鳥会報告

●やすらぎ公園探鳥会 (伊勢市)

日時: 10月1日(日) 6:00~10:00
 担当: 今村禎・林淳子
 参加者: 26名
 観察種: 22種

サシバ 80・ハチクマ 2・チコハヤブ 1・イワツバメ・ヒメアマツバ
 メ・コシアカツバメ・ツバメ・アマツバメ・エゾビタキ・ヒヨドリ
 キセキレイ・キジバト・モズ・ハシブトガラス・コジュケイ・メジ
 ロ・カワウ・ホオジロ・トビ・ヤマガタアザヒ・カラヒリ

*今年にはスカイフェスタがちょうどタカ渡りの時期に、それもコースにあたる鳥羽から朝熊山麓で行われた。それが原因かはわからないがタカ渡りのコースが例年と違うように思われた。

●名張川探鳥会 (名張市)

日時: 10月8日(日)
 担当: 田中豊成・塗矢博一
 観察種: 26種

スズメ・アオサギ・イソシギ・イソヒヨドリ・カイツブリ・カワウ
 カワセミ・キセキレイ・セグロセキレイ・タビサギ・ハクセキレイ
 キジ・トビ・ホオジロ・モズ・ウグイス・キジバト・ハシホト
 ガラス・ヒヨドリ・ムクドリ・ノビタキ・アマツバメ・ショウトウ
 ツバメ・ツバメ・タカsp・コシアカツバメ

*イソヒヨドリが見られたことは大きな衝撃でした。情報としては知っていましたが、分布の拡大ででしょうか。

高松海岸探鳥会に参加して 川村 勇 (四日市市)

子供の頃より、よく遊び、早魃、洪水の怖さなど、生活の大部分だった朝明川河口に、こんな鳥の楽園があるのを初めて知りました。また鳥の種類が多さ、海岸の植物のご説明など、暑い中ありがとうございました。インターネットで日本野鳥の会を知りました。鈴鹿山岳会OBです。また参加させて下さい。

「自然のなかま」紹介 ●「志摩半島野生動物研究会」●

シロチドリの住む砂浜は、ウミガメのふるさとでもあります。「志摩半島野生動物研究会」は、三重県内に生息する野生動物、特にウミガメの調査・保護、その生息環境の保全を目的とした活動に取り組んでいるグループです。近年、アカウミガメの産卵場所である砂浜の環境悪化が進み、このままでは三重県からアカウミガメの産卵がなくなってしまうのではないかと心配されています。

この現状を多くの方に知っていただき、関心をもっていただくために、会ではパンフレット「三重県のアカウミガメが危ない」(1部100円)を制作しました。会の活動、パンフレットに興味のある方は、下記までご連絡ください。

〒

中村みつ子 志摩半島野生動物研究会
 TEL・ファックス

編集後記

20世紀最後の「しろちどり」がやっとできあがりました。プライベートな事情もあって発行が遅れ、申し訳ありません。●先日、運転中にアトリの大群を見つけウォッチング。すぐに携帯電話(最近契約したばかり)で友人に連絡したところ、15分で駆けつけてきて見事間に合いました。2人ですごいねー、と感動。携帯の利便性は認めざるをえません。でも、やっぱり寸暇を惜しんでメールを打つ若い人の姿には、なんだかやっぱりおかしいな、と思ってしまう私なのです。●ところで、私の担当の支部報もあと1号で終了です。後任を引き受けて下さるかた、募集中。支部報づくりは楽しいですよ。(ホントホント) 原稿鳥

しろちどり 第29号 2000年11月発行

〒 濱田 稔

表紙絵 嶋田 春幸

カット ・北川和則・田中豊成・小坂里香

編集 小坂 里香

〒

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

杉浦 邦彦方

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷 館 印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●